

TOTO

インテリア・バー (UB後付けタイプ) TS134GU型・TS134GFU型 TS134GLU型・TS135GU型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1. 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
	注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負うことが想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

	○は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「分解禁止」を示します。
	●は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

警告		
	分解禁止 修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない 手すりの破損や脱落により使用される方が転倒し、けがを するおそれがあります。	
	禁止 ねじを締め過ぎて空転させない ねじを空転させた場合、手すりがガタついたり、外れたりして 使用される方が転倒し、けがを するおそれがあります。	
	必ず実行 ねじの下穴は必ずφ3mm以下とする 下穴がφ3mmより大きい場合、手すりがガタついたり外れたり して使用される方が転倒し、けがを するおそれがあります。	
	ねじの下穴には必ずシーリングを行う 水漏れの原因や、壁が腐食して、手すりが外れたり、壁が壊れ たりして使用される方が転倒し、けがを するおそれがあります。	
	必ず同梱のタッピンねじを使用し、指定の本数で取り付ける 同梱のねじを使用しなかったり、指定本数より少ない場合、手すりがガタつ いたり、外れたりして使用される方が転倒し、けがを するおそれがあります。	

警告	
	必ず実行 ● 取付可能な壁……表面が0.4mm以上の鋼板の壁 〈化粧鋼板〉 断熱材 化粧鋼板 メッキ鋼板 化粧鋼板 石こうボード
	● 取付できない壁……その他表面が鋼板でない壁 〈プラスチック板〉 発泡断熱材 プラスチック板 〈FRP板〉 発泡断熱材 バック材 FRP板 〈タイル〉 ケイ酸カルシウム板 アルミ板 タイル ホーロー、天然大理石など
取付完了後、手すりにガタツキがないことを確認する 手すりにガタツキがあると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがを するおそれがあります。	

注意	
	必ず実行 取付完了後、必ず切粉の清掃を行うこと 切粉が残っていると、使用される方がけがをしたり、もらいざびが発生するおそれがあります。

2. 取り付け前に

取り付け前の注意

●手すりを取り付ける壁表面が **鋼板 (0.4mm以上)** であることを確認してください。

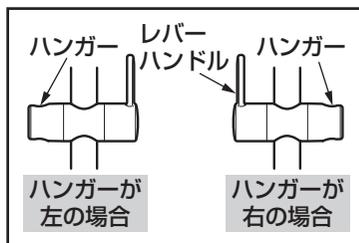
●**屋外や常時水に接する場所には取り付けない** てください。
変色や変形のおそれがあります。

●取付用開口位置は、**壁パネルのつなぎ目から 100mm以上** 離してください。



●取付用開口位置の壁裏に **給水・給湯配管がない** ことを確認してください。

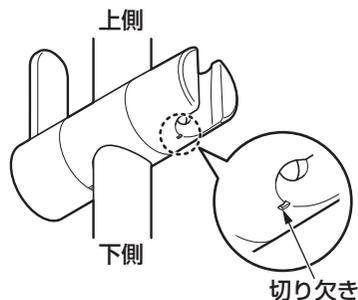
●TS135GU12Nを施工する際は、右図のように **お客様の希望に沿ってハンガーの左右方向を変更** し、取り付けてください。



一度手すりを取り付けると、再度壁から取り外さない限り左右方向を変更できません。

●ハンガーは、右図のように **切り欠きが入っている方が下側を向いている** ことを確認してください。

ハンガーの上下を間違えるとシャワーヘッドがかけられません。

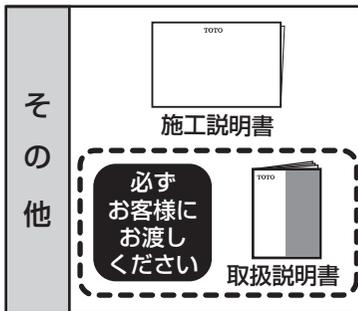
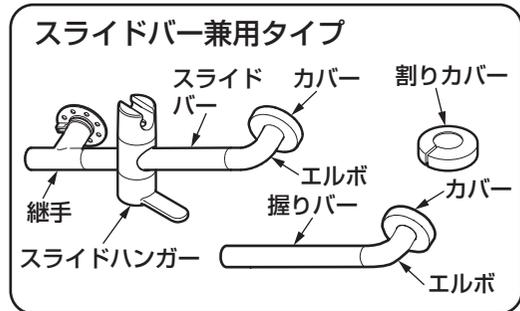
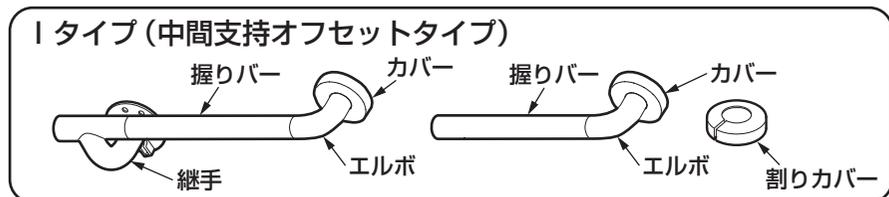
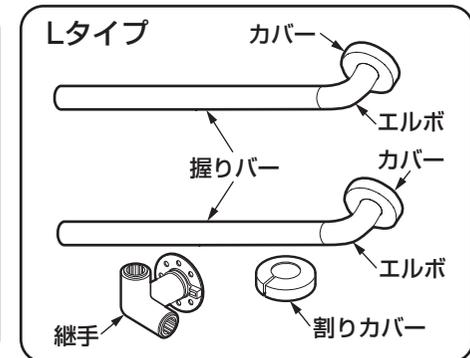
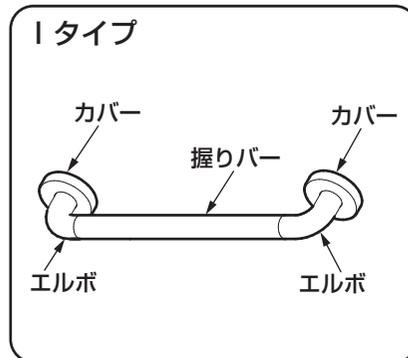


3. 部品の確認

次の部品があることを確認してください。

	 タッピンねじ	 止めねじ
Iタイプ	14本	—
Lタイプ	20本	2本
Iタイプ (中間支持オフセットタイプ)	20本	1本
スライドバー兼用タイプ	20本	1本

手すり
本体部

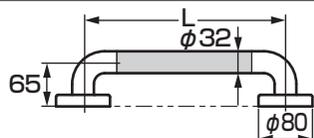


※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

4. 完成図

※  部は軟質の樹脂で滑りにくくした波形の握りバーです。 (単位: mm)

L(mm)	品番	L(mm)	品番
300	TS134GU3S	600	TS134GU6S
400	TS134GU4S	800	TS134GU8S
500	TS134GU5S		

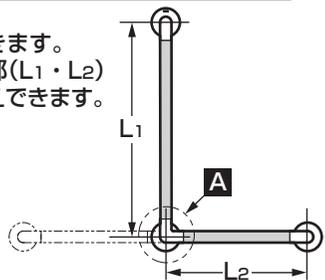


品番
TS134GFU12S



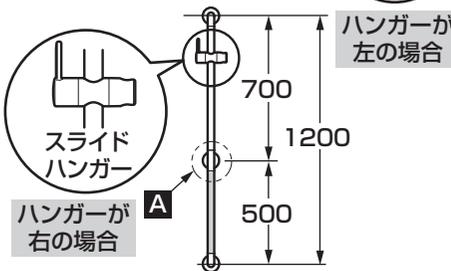
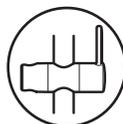
L1(mm)	L2(mm)	品番
600	400	TS134GLU64S
600	600	TS134GLU66S
800	600	TS134GLU86S

逆勝手にも
取り付けできます。
※握りバー部(L1・L2)
は組み替えできます。



品番
TS135GU12N

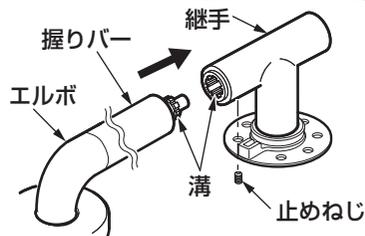
可動範囲: 600mm



5. 手すりの組み立て

【4. 完成図のAの場合】

- 握りバーと継手の溝位置をあわせて強く押し込む。継手、エルボが同じ方向を向くように(完成図の状態)溝位置をあわせてください。
- 止めねじでしっかり止める。



注意

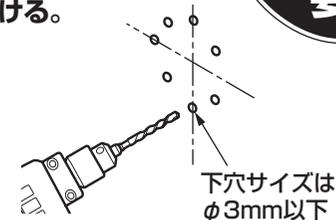
- 止めねじをねじ込む際は、六角棒レンチ(対辺2.5mm用)を使用してください。
- 止めねじは握りバーと継手間のガタツキがない程度に締め付けてください。強く締め付け過ぎると、ねじが空転するおそれがあります。

6-1. 施工手順

1. 位置決め

手すりの取付位置を決め、 $\phi 3\text{mm}$ 以下の下穴をあける。
市販のポンチを使用してマーキングを行うとスムーズに下穴があげられます。穴あけの際には、鉄鋼用のドリル刃を使用してください。

重要



警告

指定寸法の下穴をあけることのできるドリルを使用してください。指定サイズより大きな下穴をあけた場合、手すりがガタついたり外れたりして使用される方が転倒し、けがをすることがあります。

注意

取付用開口位置の壁裏に給水・給湯配管がないことを確認してください。

2. エルボ部のカバーの取り外し

カバーをフランジより外す。

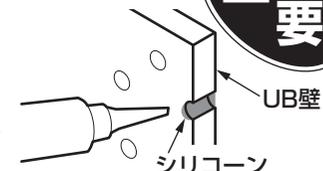


3. シーリング

〈製品を新たに施工する場合〉

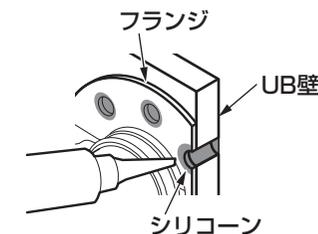
- 下穴にシリコンを塗布する。
下穴内部がシリコンで埋まるように下穴周囲および下穴内部に必ずシリコンを塗布してください。

重要



〈製品を取り外し再施工する場合(交換や修理、メンテなどの場合)〉

- 既存の下穴にシリコンを塗布する
既存の下穴内部がシリコンで埋まるように下穴周囲および下穴内部に必ずシリコンを塗布してください。
- フランジ穴にシリコンを塗布する
フランジを取付面に当て、フランジ穴が埋まるように、必ずシリコンを塗布してください。



6-2.

4. エルボ部の取り付け

① フランジを取付面にねじ止めする。

ねじを空転させないよう、最後は手締めで行い、ねじがフランジに接して半回転以上締め込まないでください。

② カバーを壁面に当たるまで押し付ける。

警告

- 付属のタッピンねじ7本を必ず使用してください。
- ドライバーの締め付けトルクが強すぎると、空転するおそれがあります。ねじを空転させないように締め過ぎに十分注意してください。ねじを空転させると、手ずりがガタついたり、外れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。



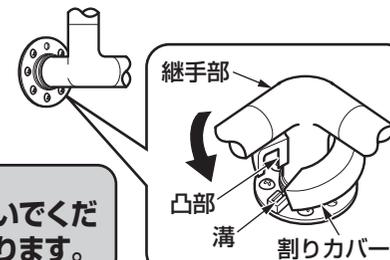
6-3.

② 割りカバーを継手部に取り付ける。

割りカバーを図のように開いて継手部にはめ、裏側の凸部を継手の溝にはめ込みながら、壁面へ当たるまで押し込んでください。

注意

割りカバーを開くときは必要以上に開かないでください。カバーが破壊や変形するおそれがあります。



7. 点検項目

① 取り付けが完了したあと、ガタツキの確認をしてください。

ガタツキの確認

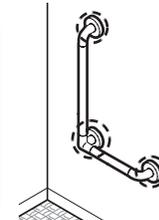
手ずりにガタツキがないか確認してください。

接続部はしっかり組み立っていますか？

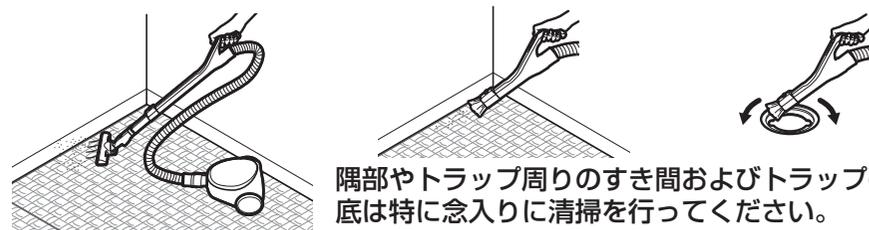
手ずりは壁にしっかり取り付けられていますか？

➡ 5. 手ずりの組み立て 参照

➡ 6. 施工手順 参照



② 取り付けが完了したあと、清掃を必ず行ってください。



注意

取付完了後は必ず切粉の清掃を行ってください。切粉が残っていると、使用される方がけがをしたり、もらいざびが発生するおそれがあります。

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

5. 継手部の取り付け

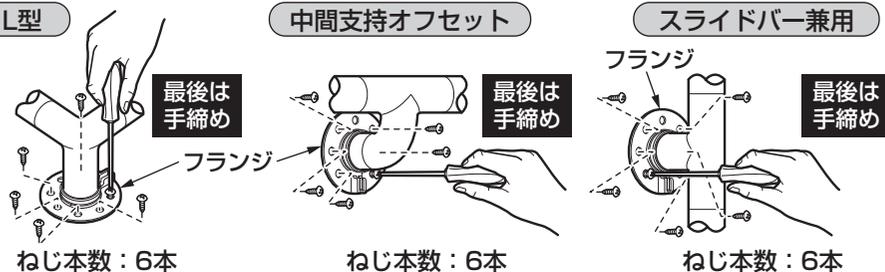
① フランジを取付面にねじ止めする。

ねじを空転させないよう、最後は手締めで行い、ねじがフランジに接して半回転以上締め込まないでください。

L型

中間支持オフセット

スライドバー兼用



警告

- 付属のタッピンねじ6本を必ず使用してください。
- ドライバーの締め付けトルクが強すぎると、空転するおそれがあります。ねじを空転させないように締め過ぎに十分注意をしてください。ねじを空転させると、手ずりがガタついたり、外れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。